

海が育てた自然と歴史のまち

鹿島

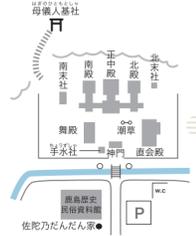
ましまし歩きマップ



八百万の神々が集う神在の社

佐太神社

「出雲国風土記」に出雲国内四大神のひとつと記される佐太大神を祀り、広く信仰を集める由緒ある佐太神社は、貞観元年(八五九年)に正五位に叙されたのち、出雲大社に続く「出雲国二ノ宮」と称されるようになり、また本殿は、三殿並立という珍しい建築様式を持ち、中央を正中殿、向かって右を北殿、左を南殿と称し、いずれも重厚な大社造りとなっています。社宝である「影絵楯」と龍、熊鷹、花鳥、文彩絵扇箱、甲冑三休、貞享造管(江戸前期)のときの藩工竹内宇兵衛筆の棟札と指図板は、本殿三社とともに国の重要文化財に指定されています。



御祭神は、正殿に佐太大神(猿田毘古大神)、伊弉諾尊、伊弉冉尊、事解男神、速玉之男神、北殿に天照大神、瓊々杵尊、南殿に素戔嗚尊、秘説四座の神々を祀っています。社宝である影絵楯や日本書紀に記される出雲系神話ゆかりの深い神々です。



- 南末社
南殿の左に位置する摂末社。四社を有し、御祭神にそれぞれ、手力雄命、天鏡女命、間使女命、菅原道真を祀ります。
- 北末社
北殿の右に位置する摂末社。こちらも四社あり、御祭神に大己貴命、天兒屋根命、玉屋命、竹生島神を祀ります。
- 母儀人基社
境内南方奥の三笠山に続く石段を登ったところに磐鏡があり、古くから子宝、安産の神として厚く信仰されています。
- 山中神社
佐太神社の東に位置する摂末社で、東西に並ぶ二つの社殿が背を向けて建つ珍しいもの。東社は縁切りと長寿、西社は縁結びや安産にご利益があるとされています。

国指定重要無形民俗文化財
ユネスコ無形文化遺産登録候補

佐陀神能

佐陀神能は神事的な舞の「七座」祝言としての「式三番」、神話や縁起を素材とした演劇舞「神能」の三部で構成され、それまでの神楽に幽玄な能の所作を取り入れた芸術性の高さが特徴です。

【佐陀神能の御由緒】

佐太神社「御祭神」の当日から翌日にかけて行われる神楽で、出雲神楽の源流と称されています。慶長の頃、同社の格主祝官川兵部少輔秀行が京都で能楽の所作を学んで帰り、創り上げたものと伝えられ、その伝統を今日に継承しています。

神能演目
神能の演目には、佐太神社の秘蔵する「大社」をはじめ、「夏切舞」「八幡」「比治舞」「舞臺」「日本武」の九曲と原曲となっている「三曲」(住吉「荒神」)の三曲があります。

御座替神事
本殿三社以下、摂末社の御座替の儀式。数夜持ちの神事です。古来より、佐陀の神能で通じ、佐太神社の御座替神事は、この御座替神能の中心です。佐太神社の御座替神能は、佐太神社の御座替神能の中心です。佐太神社の御座替神能は、佐太神社の御座替神能の中心です。

式三番
舞臺(住吉「荒神」)の中心です。佐太神社の御座替神能は、佐太神社の御座替神能の中心です。佐太神社の御座替神能は、佐太神社の御座替神能の中心です。



出雲神話でも有名な美楽鳴尊による八岐大蛇退治を題材とした「八重垣」

鹿島 ましまし歩きマップ

●発行●
鹿島地区わがまち自慢発掘プロジェクト実行委員会
〈お問い合わせ先〉
松江市役所鹿島支所地域振興課 TEL0852-55-5700
※「鹿島まち歩きマップ」内の記事は「鹿島町誌」「新編鹿島町誌」を参考にしています。

- 1 御島
松江市鹿島町御津
- 2 鹿島多久的湯
松江市鹿島町北講武
- 3 かしま海・山・里のふれあい広場
松江市鹿島町南講武
- 4 佐陀乃だんだん家
松江市鹿島町佐陀宮内
- 5 鳥根原子力館
松江市鹿島町佐陀本郷
- 6 片句大師堂
松江市鹿島町片句
- 7 清原大兵衛銅像
松江市鹿島町名分



鹿島の魅力をめぐる

- 1 堀部史跡公園
松江市鹿島町北講武
- 2 廣納荒神
松江市鹿島町古浦
- 3 撞慶院
松江市鹿島町手緒
- 4 片句大師堂
松江市鹿島町片句
- 5 鳥根原子力館
松江市鹿島町佐陀本郷
- 6 古浦海岸
松江市鹿島町古浦
- 7 朝日寺・朝白山
松江市鹿島町佐陀本郷
- 8 鹿島多久的湯
松江市鹿島町北講武
- 9 かしま海・山・里のふれあい広場
松江市鹿島町南講武
- 10 佐陀乃だんだん家
松江市鹿島町佐陀宮内
- 11 御島
松江市鹿島町御津



歴史ゆかりの地をめぐる

- 1 佐太神社
松江市鹿島町佐陀宮内
- 2 鹿島歴史民俗資料館
松江市鹿島町佐陀宮内
- 3 清原大兵衛銅像
松江市鹿島町名分
- 4 撞慶院
松江市鹿島町手緒
- 5 鳥根原子力館
松江市鹿島町佐陀本郷
- 6 古浦海岸
松江市鹿島町古浦
- 7 朝日寺・朝白山
松江市鹿島町佐陀本郷
- 8 鹿島多久的湯
松江市鹿島町北講武
- 9 かしま海・山・里のふれあい広場
松江市鹿島町南講武
- 10 佐陀乃だんだん家
松江市鹿島町佐陀宮内
- 11 御島
松江市鹿島町御津



神社仏閣をめぐる

- 1 海禪寺
松江市鹿島町古浦
- 2 法船寺
松江市鹿島町重慶
- 3 常楽寺
松江市鹿島町上講武
- 4 多久神社
松江市鹿島町講武
- 5 御津神社
松江市鹿島町御津
- 6 恵雲神社
松江市鹿島町佐陀本郷
- 7 御島
松江市鹿島町御津



神社仏閣をめぐる

- 1 海禪寺
松江市鹿島町古浦
- 2 法船寺
松江市鹿島町重慶
- 3 常楽寺
松江市鹿島町上講武
- 4 多久神社
松江市鹿島町講武
- 5 御津神社
松江市鹿島町御津
- 6 恵雲神社
松江市鹿島町佐陀本郷
- 7 御島
松江市鹿島町御津



海が育てた自然と歴史のまちを歩いてみよう。

鹿島の町は、山と海、野と川的情趣あふれるところです。町の北と西は日本海に面し、島根県東部最大の恵曇漁港と古浦砂丘をひかえます。町の中央は、宍道湖と日本海を結ぶ運河佐陀川と大平山を源にする講武川が貫流し、流域には豊かな田園が開けています。

島根半島のほぼ中央に位置する鹿島地域の歴史は古く、『出雲国風土記』の国引き神話に登場する「狭田の国」に重なるところ、多くの遺跡や出土品からは、縄文時代にさかのぼる悠遠の歴史が跡づけられるところです。

こうした豊かな自然や歴史に培われてきた鹿島の町は、磯や海浜で遊び、山野を散策するもよし、有形・無形の文化財に触れてその歴史を探るもよし、また温泉でゆったりとした時を過ごすもよし。

この「鹿島まち歩きマップ」が思いのまち歩きに役立つことを願っています。



■南正寺
田畑を見おろす高台にあります。釈迦牟尼如来を本尊とする曹洞宗のお寺で、寛永20(1643)年開山と伝えられます。



■善福寺
釈迦牟尼仏を本尊とする曹洞宗のお寺で、文明13(1481)年創建と伝えられます。オレンジ色の瓦が緑に映えます。



■観潮寺
聖観世音菩薩を本尊とする臨済宗のお寺で、寛永10(1633)年開山と伝えられます。境内には秋葉大権現が祀られています。かつては8月17日の祭礼で草相撲が行われていました。



■恵曇神社
式内社。「出雲国風土記」記載の恵杼毛社と伝えられ、佐太神社の神在祭に集まられた神々は、海岸に近いこの社で先ず休まれたと伝えられています。



■大井神社
細い山道の参道をのぼると古い石碑の先に社があります。「出雲国風土記」記載の大井社と伝えられ、かつては大井宮大明神と呼ばれていました。



■津上神社
海産物で生計をたてているこの地域らしく、海川を司る速秋津日子神・速秋津比賣神を祭神としています。手結湾を望む丘の中腹にあります。



鹿島よやまばなし

●清原太兵衛と佐陀川
清原太兵衛(1711~1787)は江戸中期の人物で、佐陀川を開削したことで知られています。農家に生まれましたが、松江藩士に仕えた後、普請方吟味役を兼ねて武士として取り立てられました。当時毎年のように宍道湖が増水し、沿岸に被害が発生。その解決のために日本海に向けて運河を開削することが必要でした。佐陀川開削は太兵衛の設計に基づき、全長12キロ、幅36メートルの規模で行われました。工事は困難を極め、太兵衛は頭陣指揮をとり、76歳で病没。その2ヵ月後に佐陀川で盛大な川開きが行われました。佐陀川開削により宍道湖の洪水が緩和され、新たな耕地が開かれました。現在ではマリナーも整備されています。鹿島町では清原太兵衛顕彰会も発足し、今も偉業をたたえ語り継いでいます。



鹿島マリナー

●増田渉と魯迅
増田渉は1903年、片句の内科医の長男として生まれました。中国文学に親しみ、中国小説の下訳をするようになり、東京大学1年の時、すでに中国小説の訳書を小説家佐藤春夫の序文つきで出版。繰って上海で近代中国の代表的文学者・魯迅から1対1の講義を受け、帰国の際には別れを惜しむ漢詩を贈られました。この漢詩は後に、日中平和友好条約締結の際にエピソードとして引用されるほどでした。帰国後、魯迅と増田の文通は片句と上海の間で魯迅がなくなるまで続けられ、鹿島町が話題にのぼる書籍もありました。鹿島歴史民俗資料館には、魯迅から贈られた漢詩や書籍が展示。また、鹿島文化ホール前庭には顕彰碑があります。



晩年の増田渉 魯迅

●カンカン部隊
大正から昭和にかけて、恵曇の女性による海産物の行商が盛んに行われ、生活を支えていました。昭和40年代になると、行商人たちを乗せた行商人専用の路線バスが運行されるようになり、ブリキ缶を背負う女性たちの姿が、松江市内路上に見られるようになりました。それが「カンカン部隊」と言われるようになった理由です。行商人たちはお得意さんの勝手口を回り、会話を交わしながら商売をしていました。こうした商売の繰り返しによって得られた情報や珍しい話は、鹿島の文化の向上や近代化に大きな役割を果たしていました。



バスを持つ「カンカン部隊」(「新編 鹿島町誌」より)

●旧藩時代の特産品
■藤布
上講武方面では、山野に自生する藤のつるを糸によって網や布に織っていました。とても丈夫できりや炭焼きなどの山仕事に着るものや、蒸しものをのする敷き布から魚網などあらゆるものに利用されていました。
■製塩
明徳2年(1391年)には、恵曇で製塩が行われていたという記録があります。次第に規模が大きくなり、文化3年(1836年)の記録によると古浦の8割が塩作りに従事していました。塩は御用塩と称し、藩に上納されていました。製塩方法は天日乾燥と火力乾燥の両方で、古浦横手の山を塩木山と称し燃料とし、藩がこの保護に当たっていたこともありました。



藤布の織機(「新編 鹿島町誌」より)

●鹿島の特産品
海と山に囲まれた自然のあふれる鹿島町では、恵曇や御津などで水揚げされる日本海の新鮮な魚介類やその水産加工品をはじめ、お茶や果実などの農産加工品、味噌やポン酢などの調味料、お菓子など様々な特産品が揃っています。特に、新鮮なウルメいわしの丸干しや「片句わかめ」と呼ばれる板わかめは、素朴な味わいがあり、鹿島町ならではののもので、お土産には最適です。



また、わかめの茎やわかめがぎょしり詰まった「片句わかめ茎味噌」や地元産の大豆、お茶などをたっぷり使ったクッキーも人気を集めています。



片句わかめ茎味噌 むのりの里講武のクッキー

- 販売場所**
- 鹿島多々の湯 TEL0852-82-9300
 - 久ト商店 TEL0852-82-0067
 - 泉屋商店 TEL0852-82-0015
 - かしま海・山・里のふれあい市場 TEL0852-82-0021